

常圧水素カートリッジを用いたデバイスの社会実装実証事業

協定の目的

ゼロカーボンシティを目指す水素社会の実現に向けたこうふグリーンラボの新たな実証事業として、民間事業者との連携により、**常圧水素カートリッジ（水素吸蔵合金）**を用い、**市民に身近なデバイスへの水素の社会実装**を進め、地域社会に水素エネルギーを浸透させる

水素の貯蔵・供給方法

水素の貯蔵・供給については、高圧ガスボンベによるものと水素吸蔵合金によるものが存在するため、活用の場に応じてそれぞれの長所を活かした役割分担の中で、貯蔵・供給方法を選択する

高圧ボンベ

役割分担

水素吸蔵合金

いつでも 誰でも
どこでも

協定イメージ

甲府市

協定

ABILITY
株式会社

- ◆ 実証フィールドの提供
- ◆ 実証

- ◆ 実証デバイスの開発
- ◆ 実証

本協定に基づく事業では、市民の日常生活をはじめとした市域への水素の小口利用の普及を図るため、法規制等のない常圧水素カートリッジ（水素吸蔵合金）を用いた実証を行う



日常生活

モビリティ

令和6年度事業

事業内容：令和6年度は、市民に身近なデバイスとしてモビリティに焦点をあて、**水素・燃料電池電動アシスト自転車（以下、「水素自転車」という）を開発**する

※令和7年度には、開発した水素自転車を、本市事業にて実証事業として活用し、①**水素エネルギーの利活用の促進**と②**地域経済の活性化等**に繋げる

自転車の形状等：男性や女性が乗車できるよう、**タイプの異なる形状の水素自転車**を複数台開発する

連携による共同開発・共同実証



開発



実証



分析

令和6年度

令和7年度

事業展開

年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
取組内容	【9月】 ■協定の締結 ■開発（委託契約） → 2月末に開発した水素自転車を発表	■実証・分析 ■新たなデバイスの検討	■実証・検討結果を踏まえた新たなデバイスの導入

実証内容：① 環境負荷削減量（市）と安定走行（A）に関する実証
② 水素吸蔵合金ボンベを用いた運用面（市）に関する実証
③ 水素自転車利用者の位置情報等（市）の取得

→ 気候・走行時間と距離(平均速度)・水素使用量・乗り心地
→ 充填時間・充填操作
→ 移動経路・滞在時間・移動時間
市：甲府市 A：ABILITY